

不妊治療を受けている方が安心して治療を受けられるよう、皆さんに知ってほしいことがあります。

「不妊って？」

「不妊治療って？」

「不妊に悩む夫婦は
どれくらい？」

「不妊治療のこと
周囲に話してる？」

「相談できる場所は？」



不妊治療と仕事の両立支援

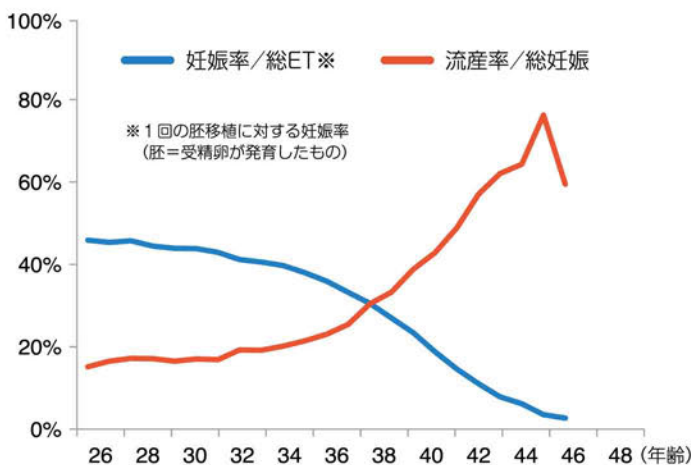
～安心して治療を受けながら働き続けるために～

体外受精で産まれる子どもは約18人に1人！

日本で体外受精や顕微授精などの生殖補助医療（ART）によって2016年に誕生した子どもの数は、54,100人。厚生労働省の統計では2016年の総出生数は976,978人で、18人に1人が体外受精によって生まれた計算になります。日本で体外受精によって生まれた子どもは、累計で536,737人になります。不妊治療は、とても身近なものになっています。

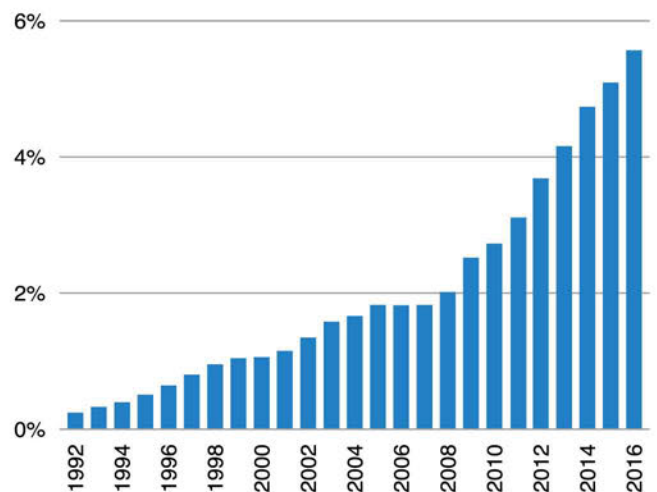
※日本産科婦人科学会、厚生労働省「人口動態統計」による

妊娠率及び流産率の変化



出典：日本産科婦人科学会 ARTデータブック2017 一部引用

不妊治療により出生した子の割合



三重県子ども・福祉部

監修 三重県産婦人科医会

不妊とは

子どもを希望する男女が、一定期間（一般的には1年）避妊をしないで性交を行っていても妊娠しない場合をいいます。

日本では、5.5組に1組が不妊に悩んでいるといわれています。

妊娠には年齢が大きく関係しており、30代半ばから妊娠率が低下していくとされているので、治療の期限は限られます。

不妊症の原因 ～原因は男女半々～

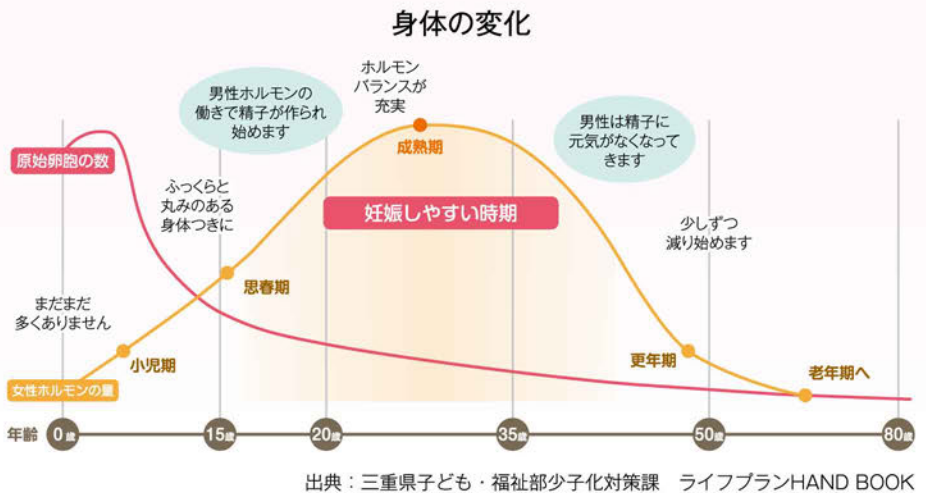
不妊といっても、原因は様々です。複数の原因を併せ持っている夫婦も多く、治療内容はそれぞれの夫婦により異なります。WHOの統計では、約半数に男性側にも原因があるようです。また、検査をしても原因が分からない場合もあります。

卵子と身体には適齢期がある！

女性の卵子は胎児のときにすでに作られます。生まれた時には、卵子の数は約200万個ありますが、思春期には約20～30万個と、年齢とともに減少していきます。

また、年齢を重ねると、体や肌が年齢とともに変化するように、卵子も老化が進みます。卵子が老化すると、正常な受精卵になりにくくなり、受精卵が育たなくなったり、流産しやすくなったりします。

また、年齢とともに妊娠や出産の危険性が増加します。このように、女性の年齢は妊娠に大きく影響します。子どもはいつでも持てるのではなく、妊娠・出産に適した年齢があるのです。



不妊治療について ～不妊治療の基本的な流れ～

不妊治療は原因に応じて、負担の少ない方法から開始します。一定期間治療して妊娠しない場合は、順を追ってステップアップしていきます。治療法の選択は、不妊原因や年齢などを考慮し、個別に判断されます。

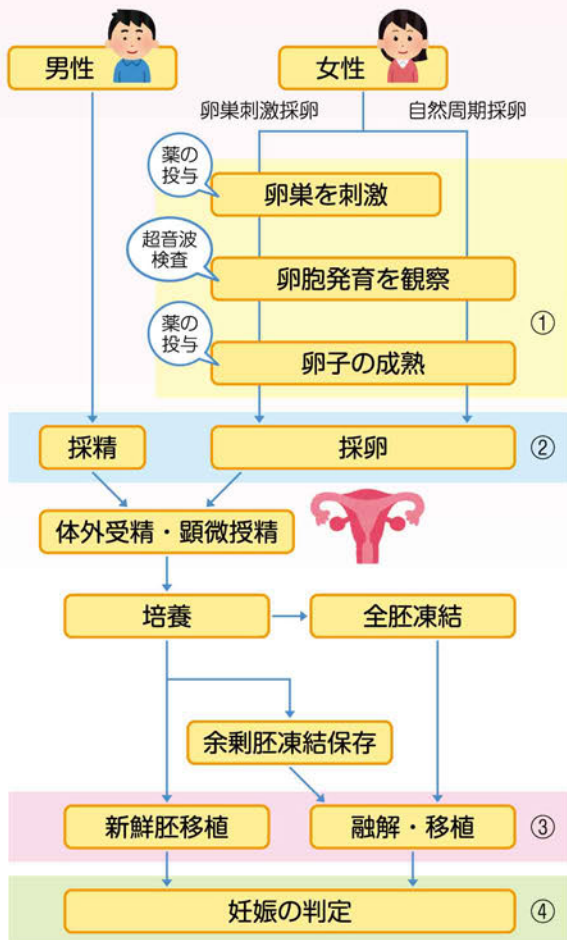


検査	原因	一般不妊治療	生殖補助医療
女性側検査 <ul style="list-style-type: none"> 問診 卵巣機能検査 子宮・卵管の検査 性交後検査 男性側検査 <ul style="list-style-type: none"> 問診 精液検査 	女性不妊の主な原因 <ul style="list-style-type: none"> 排卵障害（卵が育たない、育ってもうまく排卵できない） 卵管因子（細菌感染や子宮内膜症等による卵管の癒着等） 子宮因子（子宮筋腫や子宮腺筋症等 頸管因子） 子宮内膜症 男性不妊の主な原因 <ul style="list-style-type: none"> 造精機能障害（正常精子が十分作られない） 精路通過障害（精子の通り道に異常がある） 性功能障害（勃起障害、射精障害、性欲障害） 	タイミング法 <ul style="list-style-type: none"> 排卵日に合わせた性交渉 排卵誘発 <ul style="list-style-type: none"> 内服薬や注射で卵巣を刺激して卵胞発育をおこさせる方法 人工授精 <ul style="list-style-type: none"> 排卵日に合わせて、精子を人工的に子宮に注入する方法 手術療法 <ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡手術 子宮鏡下手術 卵管鏡下卵管形成術 	体外受精 <ul style="list-style-type: none"> 体外に取り出した卵子と精子を受精させ、受精卵を子宮に戻す（胚移植する）方法。 顕微授精 <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡を使って、卵子の中まで精子を注入する方法。 精巣内・精巣上体内精子採取 <ul style="list-style-type: none"> 手術用顕微鏡を用いて精巣内より精子を回収する男性不妊治療。

不妊治療の流れ ～体外受精の流れとスケジュール・通院回数を目安～

体外受精は女性の卵巣から取り出した卵子と、男性から採取した精子を受精させ、受精卵を子宮に移植する方法です。タイミング法や人工授精で妊娠に至らなかった場合に適応されます。

また、治療は排卵周期に合わせて行われるため、指定された日や、急に通院が必要な場合もあり、あらかじめ予定を立てることが困難です。治療そのものにかかる時間は、診療の内容により異なり、時間がかかる場合もあります。



①卵巣刺激	月経開始前後から7～14日間連日注射。その間、2～3日に1回は診察が必要
②採卵・採精	排卵日を推定し、その日に採卵。その後数日間は安静が必要な場合もある。
③移植	指定された日に通院し、受精卵（胚）を子宮内に移植。
④黄体管理・妊娠判定	移植後、着床しやすいよう黄体ホルモンの補充に数回の通院が必要。

治療	治療内容	通院回数を目安
タイミング法	超音波検査やホルモン検査により排卵日を推定。	月経周期ごとに2～3回の通院。
排卵誘発	排卵誘発剤の内服あるいは注射により卵巣を刺激して排卵を誘発。	卵巣の発育期（約10～15日間）に2～4回通院。その後、排卵の確認等のため通院。
人工授精	排卵日に合わせて、精子を人工的に子宮に注入。	排卵日を推定したうえで、排卵日の2日前から当日に施行。

不妊治療の特徴

不妊治療には、他の治療には無い様々な特徴があります。このことが、不妊治療について理解が得られにくい原因にもなっています。

◆不妊治療の特徴

- 健康維持のための治療ではない
⇒ 優先順位が低くなりがちである
- 受精卵の大半が生児に至ることはなく、生児に至る受精卵に巡り合うまで治療を反復
⇒ 生児を得るまでに必要な治療期間の予測はできない
- ご夫婦を対象とする治療
⇒ ご主人に対する配慮も必須である
- 治療は性周期に合わせて施行
⇒ あらかじめ治療の日程を特定できない



不妊治療の悩み ～3つの負担～

不妊治療を受けている方は、様々な悩みや負担を抱えながら治療を受けています。不妊治療特有の悩みを理解することが重要です。

身体的な負担

「身体的な負担」

不妊の原因の約半分は男性にあり、原因によっては、男性の治療も必要になってきます。しかし、実際に何度も病院に通って治療を受け、治療の主体となるのは女性です。女性の体には、治療に伴う検査や投薬などにより大きな負担がかかります。

精神的な負担

「精神的な負担」

不妊治療は治療をすると必ず妊娠するとは限りません。治療を始めてすぐに妊娠する場合もあれば、何年も治療を続けられている方もいます。不妊治療を受けている方は、いつまで続くのかわからない治療に大きな不安や悩みを抱えています。

さらに、何度も治療を行い妊娠に至らなかった場合の喪失感から、精神的に追い詰められた状態になる方もいます。

経済的な負担

「経済的な負担」

体外受精や顕微授精などの高度な生殖補助医療（ART）は、医療保険が適用されません。そのため、全額自己負担となり、治療費が高額になります。繰り返し治療を受けるとさらに高額な出費となります。また、医療費以外にも、通院のための交通費や飲食代などもかかります。

当事者の声

薬の作用でむくみやだるさ、仕事終わりに1時間かけての通院、その後の家事など、負担が大きい。

当事者の声

先の見えない治療、妊娠するかどうかわからない不安など、他人にはあまり言いたくない。また、パートナーにも伝わらずイライラ。未だに体外受精に否定的な考え方の人もいて、理解してもらい難しさを感じている。

当事者の声

治療費が高額で、治療を断念せざるを得ない時がいつか来るのではないかと不安。しかし、仕事に就くと治療に専念できなくなるため、不安はなくなる。

さらなる悩み ～不妊治療と仕事の両立～

「仕事との両立」

不妊治療は排卵周期に合わせて通院が必要で、あらかじめ通院のスケジュールを立てることが難しく、頻繁かつ突然休みが必要になるため、仕事の日程調整が難しく、周囲に迷惑をかけて心苦しいと感じ、多くの方が周囲との関係に悩みを抱えています。

当事者の声

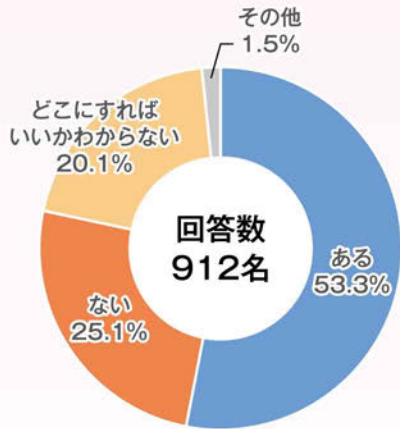
治療をしていると、仕事を休まなければいけないことや急に休まなければいけないことが何度もある。仕事を休ませてもらっても、休んだ分の仕事はたまり、急な休みの時には申し訳ない気持ちになるので、精神的につらい。

仕事と不妊治療の両立支援 ～当事者アンケート調査～

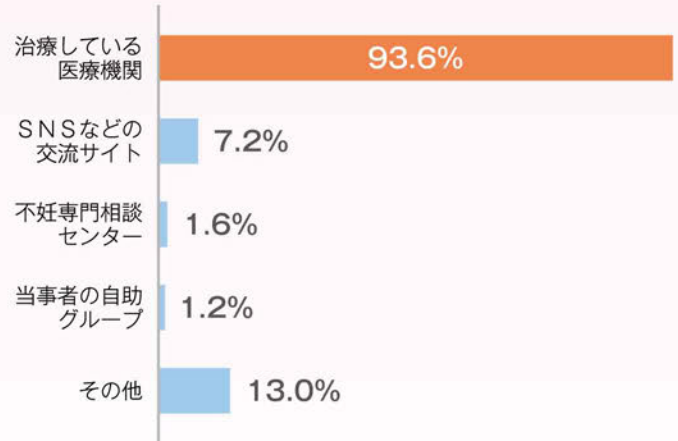
三重県の指定医療機関において不妊治療を受けている方など、不妊治療の当事者を対象にアンケート調査を実施しました。

相談先について

不妊治療について相談できる場所はありますか



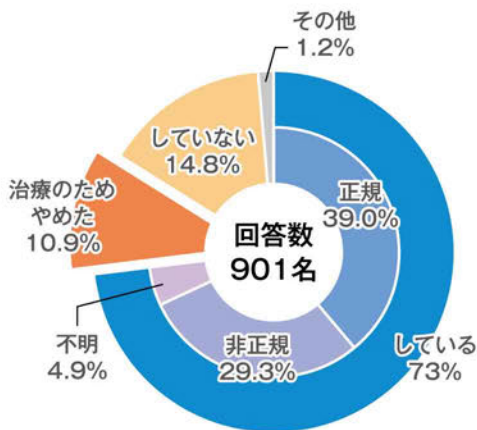
どこに相談していますか。(複数回答可)



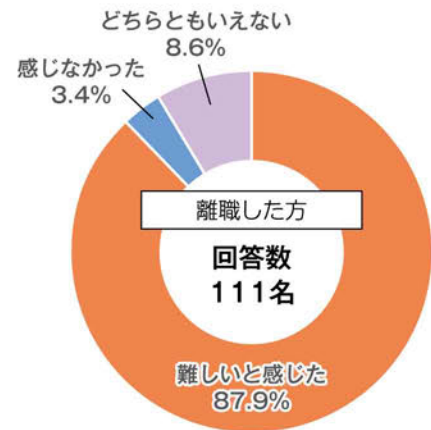
約45%の方が「相談できる場所がない」または「どこにすればいいかわからない」と回答しました。また、相談している方のほとんどは医療機関にしか相談しておらず、他の相談先や当事者同士の交流会などを求める声も挙がりました。

不妊治療と働き方について

あなたは、就労していますか

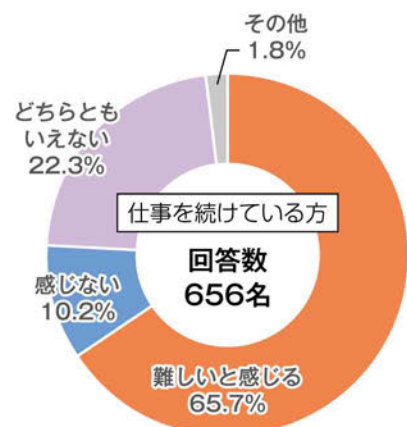


あなた自身、仕事と治療の両立を難しいと感じていますか

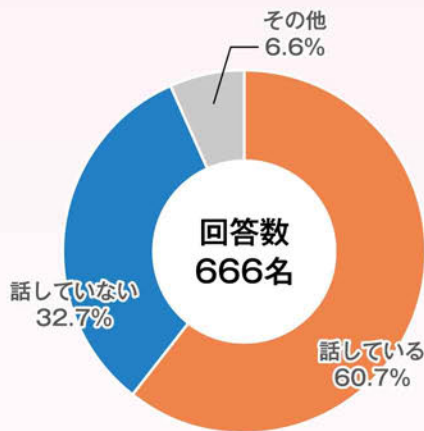


約11%が不妊治療のために仕事を辞めていました。また、転職した方や非正規に変わった方などを含めると、不妊治療のために働き方を変えた方は少なくとも14%に上ることが分かりました。

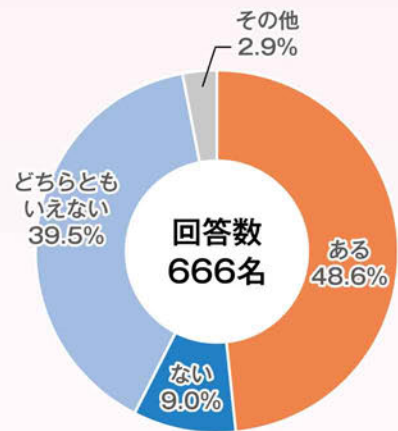
さらに、治療のために仕事を辞めた方のうち、約88%の方は仕事と不妊治療の両立が難しいと感じており、仕事を続けている方でも、約66%の方は両立が難しいと感じています。



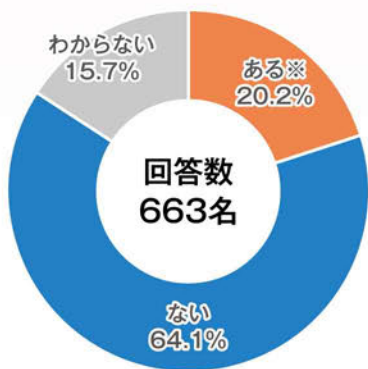
あなたは、治療していることを職場の人に話していますか



あなたの職場は、治療について理解があると感じていますか

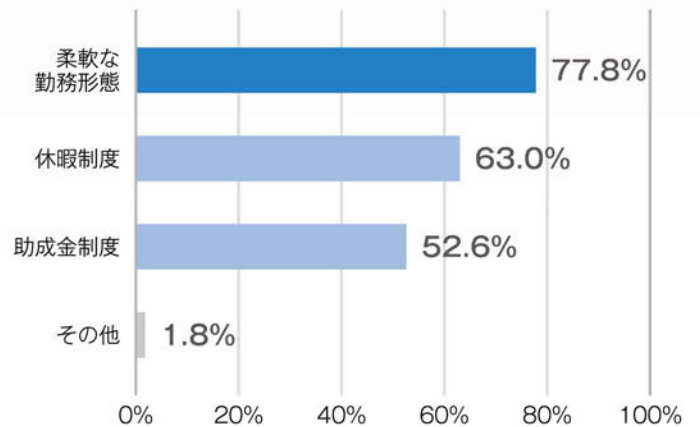


あなたの職場では、不妊治療をサポートする制度はありますか



※不妊治療に特化しない、柔軟な勤務形態等も含む

職場においてどのようなサポート制度が必要だと思いますか（複数回答可）



現在働いている方の約61%は不妊治療をしていることを職場の人に話していましたが、職場に不妊治療について理解があると感じている方は半分以下でした。

また、現在働いている方のうち、職場に不妊治療をサポートする制度があるのは約20%であり、職場に求めるサポート体制として最も多かったのが、「柔軟な勤務形態」でした。

上司の理解が無く退職した。
もっと柔軟な勤務ができていたら…



気軽に相談できる
ところが欲しい

診察のために、急な休みや
早退が必要なことを理解して
もらえないことが多いので、辛い

アンケート結果から、不妊治療と仕事の両立に悩む方の切実な思いがうかがえます。

不妊治療に対する正しい知識を持ち、理解を深めることが、サポートにつながります。また、不妊治療の悩みや不安などを相談しやすい環境を整備することが必要です。

企業の現状

三重県子ども・福祉部少子化対策課が平成29年に実施した、「仕事と結婚・妊娠・出産・子育ての両立促進に関する労使意識調査」（従業員調査）によると、三重県内の事業所のうち、不妊治療のための休暇制度がある県内企業はわずか1.8%という結果となりました。

職場で私たちができること

◆不妊治療を正しく理解し、応援する職場の風土づくり

職場に不妊治療に関する正しい知識がなく、周囲の理解を得られないことで、仕事との両立がさらに難しくなることが考えられます。現実には、会社や周囲の理解がなかったことが原因で、退職や転職をした人もいます。不妊治療には、年齢的なリミットがあることや通院のスケジュールが立てづらいこと、治療による身体的負担が大きいことなど、仕事との両立を困難にする様々な要因があります。不妊治療に関する正しい知識を持ち、理解を示すことが、支援へとつながります。

◆業務配分の見直しや通院しやすい勤務体制・フレックスタイム制度

個別に業務配分やシフトの調整、勤務時間をずらす、半日休暇、時間休暇、フレックスタイム制度など柔軟な勤務を認めることで、不妊治療と仕事が両立しやすくなります。

◆プライバシーへの配慮

不妊や不妊治療に関することは、プライバシーにかかわることです。プライバシーの保護に配慮する必要があります。セクハラやマタハラなどのようなハラスメントの防止も必要です。

当事者の声

治療していることを上司に話した際、最初は理解を示してくれ、仕事量を調節してもらえましたが、“いつまでに妊娠できる”という明確な見通しが無い状態が続いたので、肩身が狭くなり、辞職しました。働きながら治療がしやすい社会環境になれば、と心から思いました。

休みをとる時に無責任だと言われました。不妊治療をしていることは理解してくれていても、仕事に支障があると嫌な顔をされると思います。

治療の予定を話さなければ、職場としても協力できないことは分かるが、流産したことや、これからの再治療を細かく話をするのは辛いときもある。

企業における不妊治療を受ける従業員をサポートする取組例

不妊治療のための休職、休暇制度

- 通院しやすいよう、半日休暇や時間休暇を導入する。
- 最長1年間等、休職を可能にする。

柔軟な働き方を導入

- フレックスタイム制度
- テレワーク制度

不妊治療のための費用の助成制度

- 不妊治療に要した費用について、一部を補助する制度を導入する

当事者の声

フレックスタイム制度があれば、急な病院の予約も気をつかわずに行きやすい。注射の期間は毎日通院が必要なので、仕事もたまる。

年単位の休暇制度があれば。採卵は多くて年に12回しかチャンスがない。仕事を優先せざるを得ず、3回ほど見送ったことがあり、後悔している。

不妊治療中の方のうち、少なくとも14%の方が、不妊治療と仕事の両立ができずに退職したり転職したりしています。従業員の不妊治療に対し支援を行うことは、企業にとっても、優秀な人材の確保という点でメリットがあります。

三重県不妊専門相談センター

不妊や不育症に関して悩んでいる方へ電話や面接による相談を行っています。相談は無料、秘密は守ります。お気軽にお電話ください。

◆三重県不妊専門相談センター（津市夢が丘1丁目1番1 三重県立看護大学内）

◆専用電話番号 **059-211-0041**

◆相談日 毎週火曜日（ただし、祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く）

◆受付時間 10:00～16:00 第3火曜日のみ10:00～20:00

◆相談員 助産師・看護師・不妊カウンセラー

◆その他 カフェ（当事者交流会）の開催について

○場所：三重県不妊専門相談センター ○時間：第3火曜日 14:00～16:00（申し込み不要、参加無料）



特定不妊治療費助成事業

特定不妊治療には高額な医療費がかかり、保険も適用されないため、不妊に悩む夫婦は、経済的に大きな負担を強いられます。このため、特定不妊治療を受けた夫婦に対して費用の一部を助成し、不妊に悩む夫婦を経済的に支援しています。

◆対象となる治療 ・特定不妊治療（体外受精・顕微授精）
・男性不妊治療（特定不妊治療の一環として）

◆対象者 ・指定医療機関において、特定不妊治療を受けていること
・特定不妊治療以外の方法では妊娠の見込みがないか又は極めて少ないと、医師に診断された法律上の夫婦。
・申請の時点で、夫又は妻のいずれか一方又は両方が三重県に住所を有すること。

◆助成額 助成は1回の治療につき15万円まで（一部7万5千円、初回のみ30万円まで。）男性不妊治療は1回につき追加で最大15万円（初回のみ30万円まで）。

◆所得制限 夫婦の前年の所得の合計額が730万円未満の方。

※不育症治療や一般不妊治療への助成を行う市町もあります。



助成回数

妻の年齢 (初回の治療開始日の年齢)	助成回数
40歳未満	通算6回まで(※)
40～43歳未満	通算3回まで(※)
43歳以上	助成対象外

※ただし妻の年齢が43歳以上で開始した治療は対象外

三重県特定不妊治療費助成事業指定医療機関

平成31年4月現在

指定医療機関名	住 所
医療法人尚徳会ヨナハ産婦人科小児科病院	桑名市大字和泉字イノ割219
慈芳産婦人科・内科・リウマチ科	四日市市ときわ4-4-17
医療法人尚豊会みたき総合病院	四日市市生桑町菰池458-1
こうのとりのWOMEN'S CAREクリニック	四日市市諏訪栄町176番地 ローレルタワーシュロア四日市204
みのうらレディースクリニック	鈴鹿市磯山3-9-17
三重大学医学部附属病院	津市江戸橋2-174
医療法人西山産婦人科	津市栄町4丁目72
済生会松阪総合病院	松阪市朝日町一区15-6
医療法人森川病院	伊賀市上野忍町2516-7

問い合わせ先
三重県子ども・福祉部子育て支援課
TEL 059-224-2248

🔍 三重県 特定不妊

検索

